

環境経営レポート 2023 年度版

(対象期間 2023 年 7 月～2024 年 6 月)



内田工業株式会社
発行日 2024 年 9 月 9 日

目次

1. 組織の概要
2. 実施体制
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標
5. 環境経営計画
6. 環境経営目標の実績・取り組み結果並びに次年度の環境経営目標
7. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、および次年度の環境経営計画
8. 環境関連法規などの遵守状況の確認および評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

1. 組織の概要

【1】 事業者名および代表者名

内田工業株式会社
代表取締役：内田 成俊

【2】 所在地

〒433-8103
静岡県浜松市中央区豊岡町 307-7
TEL : 053-438-7711
FAX : 053-438-0224
URL : <http://www.uchida-kogyo.jp/>

【3】 事業の概要

金属製品（治具・金型など）の設計、製作
金属製品試作部品の製造

【4】 事業規模

従業員数：10 名
床面積：1,378 m²

【5】 環境管理責任者

久米 昭宏

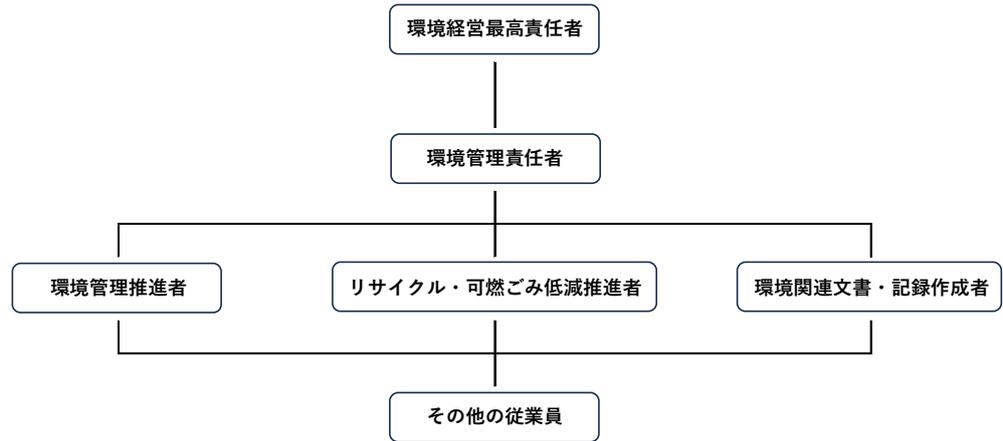
【6】 沿革

創業：昭和 57 年
エコアクション 21 認証・登録：平成 17 年 4 月 26 日
認証登録番号：0000271

【7】 対象範囲

同事業所内 UCHIDA System Management 有限会社の協力体制のもと、全組織・全活動（事業活動および製品・サービス）を対象とする。

2. 実施体制



【役割分担】

環境経営最高責任者

- ・ 環境経営全般に関する責任と権限を有する。
- ・ 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。
- ・ 環境経営方針の制定および改定。
- ・ 環境経営システム全体の評価と見直し。

環境管理責任者

- ・ 環境経営目標および環境経営計画の作成。
- ・ 環境経営システム全般の管理。
- ・ 環境経営最高責任者へ取組状況を報告する。

環境管理推進者

- ・ 環境経営システム全般の運用。
- ・ 環境上の緊急事態の想定と対応策の策定および全体訓練の実施。

リサイクル・可燃ごみ低減推進者

- ・ リサイクル・可燃ごみ低減活動のための情報を収集し、活動へ反映させる。

環境関連文書・記録作成者

- ・ 環境負荷データ等の集計。
- ・ 「環境負荷」および「環境への取組」の自己チェックの実施。
- ・ 環境関連法規等の遵守状況チェック。
- ・ 環境経営レポートの作成。

その他の従業員

- ・ 環境経営方針を遵守し、環境経営目標を達成するために努める。

3. 環境経営方針

当社は、事業活動を進めていくなかで、環境保全を最重要課題のひとつとして認識し、地球環境と地域社会の調和を保ちながら発展していくことを目指します。

- 【1】 人と地球にやさしい事業活動を行い、環境負荷の低減に努める。
- 【2】 環境経営システムを効果的に運用することおよび環境保全に努めることにより、継続的な改善を図る。
- 【3】 環境に関する法規制を遵守し、地域との連携を密に行動する。
- 【4】 当社が行う環境活動は、以下を重点項目とする。
 - (1) 工場、事業所内での省資源、省エネルギーの取り組み
 - (2) 廃棄物、排出物の低減
 - (3) 化学物質の外部への流出防止の徹底
 - (4) 上記事項の管理の徹底
 - (5) 製品・サービスの向上において、精度向上、生産性向上、耐久性向上を図り、顧客への生産性向上のみならず環境改善に努め、世の中に貢献する。
- 【5】 全従業員への環境経営方針の周知徹底
- 【6】 本方針に基づき環境目標を定め、環境経営計画に沿って自主的かつ積極的に活動を展開するとともに、定期的な見直しをする。

制定日 2003年3月31日

改定日 2014年7月25日

改定日 2020年6月3日

改定日 2021年3月16日

代表取締役 内田 成俊

4. 環境経営目標

		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		基準年	目標	目標	目標
実数	二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	78,390	80,997	83,987	86,898
	電気使用量 (kWh)	194,962	202,737	210,246	217,560
	ガス使用量 (kg)	74.5	73.8	73.0	72.3
	ガソリン使用量 (L)	1,801	1,872	1,942	2,009
生産高指数		262,142	275,249	288,356	301,463
効率化指数	二酸化炭素排出量	0.299	0.294	0.291	0.288
	電気使用量	0.744	0.737	0.729	0.722
	ガソリン使用量 (×1000)	6.87	6.80	6.73	6.66
	一般廃棄物排出量 (kg)	195.4	237	237	237
産業廃棄物排出量 (kg)	産業廃棄物排出量 (kg)	3,060	4,570	4,570	4,570
	廃油排出量 (kg)	2,880	2,970	2,970	2,970
	混合廃棄物排出量 (kg)	180	1,600	1,600	1,600
水使用量 (m ³)		159.5	164	164	164
製品・サービスの環境性能向上		2件/年	1件/年	1件/年	1件/年

- ※1 昨年度の実績を基に目標を見直したため、昨年度のレポートと目標値が異なります。
- ※2 昨年度より二酸化炭素排出量、電気使用量、ガソリン使用量の目標値を生産高指数をもとに管理することとした。
- ※3 一般廃棄物排出量、産業廃棄物排出量、水使用量は機械の搬入や従業員人数の増減、また、作業により必ず排出されてしまう項目である為管理が困難である。
その為、計画を目標と定めこれまで管理してきた数値より 2025 年度までは数値を維持していく方向に目標を修正した。(目標値は過去 5 年間の数値の最高値を計画とする)また、2025 年以降新たに数値を設定し管理していくこととする
- ※4 電気の二酸化炭素排出係数は、中部電力ミライズの調整後排出係数 (2020 年度実績) 0.377kg-CO2/kWh」を使用しています。

5. 環境経営計画

	活動内容	期間	責任者
電気使用量低減	空調温度適正設定（夏季 26°C、冬季 20°C） ※一部例外あり	2015 年度～継続	環境管理推進者
	外気活用による空調停止	2015 年度～継続	
	使用していない設備や機器の電源 OFF	2015 年度～継続	
	使用していない場所の消灯、外光活用	2015 年度～継続	
	空調設備・工作機械フィルターの定期的清掃	2015 年度～継続	
	蛍光灯の LED 化	2022 年度～継続	
	空調設備の高効率化更新	2022 年度～継続	
燃費向上	「ふんわりアクセル」「早めのアクセルオフ」 を心がける	2017 年度～継続	環境管理推進者
ガス使用量低減	冬季、温水を流しっぱなしにしない	2015 年度～継続	環境管理推進者
一般廃棄物 排出量低減	コピー用紙の裏紙利用	2015 年度～継続	リサイクル・可燃ごみ 低減推進者
	雑紙リサイクル推進	2017 年度～継続	
	DX 促進によるペーパーレス化	2023 年度新規	
産業廃棄物 排出量低減	梱包資材（段ボール、緩衝材）のリユース推進	2019 年度～継続	環境管理推進者
廃油 排出量低減	専用装置で工作機械のクーラント液の汚れをこまめに除去	2022 年度～継続	
	汚れた軍手・ウエスを掃除時にリユース	2015 年度～継続	
混合廃棄物 排出量低減	分別強化し、金属リサイクルに回す	2018 年度～継続	
水使用量低減	水を流しっぱなしにしない	2015 年度～継続	
製品・サービスの 環境性能向上	製品・サービスの環境性能向上を推進する	2020 年度～継続	

6. 環境経営目標の実績・取り組み結果並びに次年度の環境経営目標

		2022年度	2023年度	2023年度	評価	2024年度
		基準年	目標	実績		目標
実数	二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	78,390	80,997	88,808		83,987
	電気使用量 (kWh)	194,962	202,737	224,814		210,246
	ガス使用量 (kg)	74.5	73.8	74.5		73.0
	ガソリン使用量 (L)	1,801.20	1,872	1,651		1,942
生産高指数		262,142	275,249	341,683	○	288,356
			5%	30%		10%
効率化指数	二酸化炭素排出量	0.299	0.294	0.260	○	0.291
			-1.6%	-13%		-3%
	電気使用量	0.744	0.737	0.660	○	0.729
			-1%	-11%		-2%
	ガソリン使用量 (×1000)	6.871	6.802	4.831	○	6.734
			-1%	-30%		-2%
	一般廃棄物排出量 (kg)	195.4	237	270.55	×	237
				14%		
	産業廃棄物排出量 (kg)	3,060	4,570	6,366	×	4,570
				39%		
	廃油排出量 (kg)	2,880	2,970	3,640	×	2,970
				23%		
	混合廃棄物排出量 (kg)	180	1,600	2,100	×	1,600
			31%			
水使用量 (m³)	159.5	164	195.5	×	164	
			20%			
製品・サービスの環境性能向上	2件/年	1件/年	1件/年	○	1件/年	

※1 今年度より効率化指数を基に評価していくこととする。

そのため実数では評価せず黒塗りとしている

※2 目標値の下段の%に関しては基準年に対しての目標との差である。ただし、一般産業廃棄物、産業廃棄物、廃油、混合廃棄物、水使用量下の%は立てた目標との差を表す

(1) 二酸化炭素排出量について

今年度の実績値は 88,808kg-CO2 となり、目標値の 80,997kg-CO2 を上回った。

実績値のみを見ると増えているが、昨年に続き前年度比+30.34%の生産高指数の上昇にともなう電気使用量の増加によるものと考えられる。しかしその増加も+17%と抑えられており、効率化指数で見ると-11%減の 0.66 と昨年度よりも効率的に作業に取り掛かることができている。

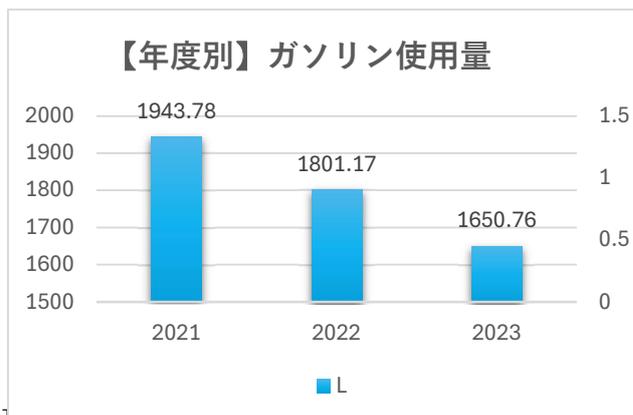
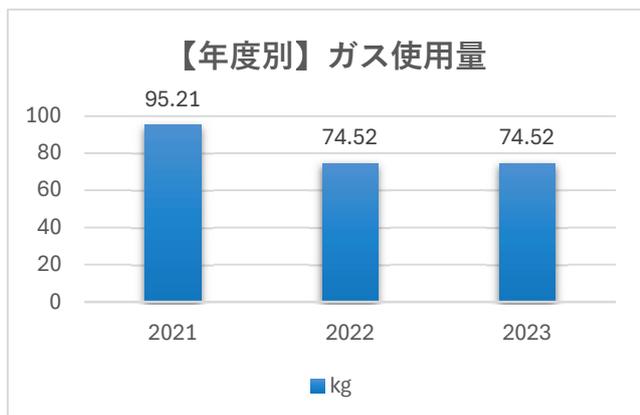
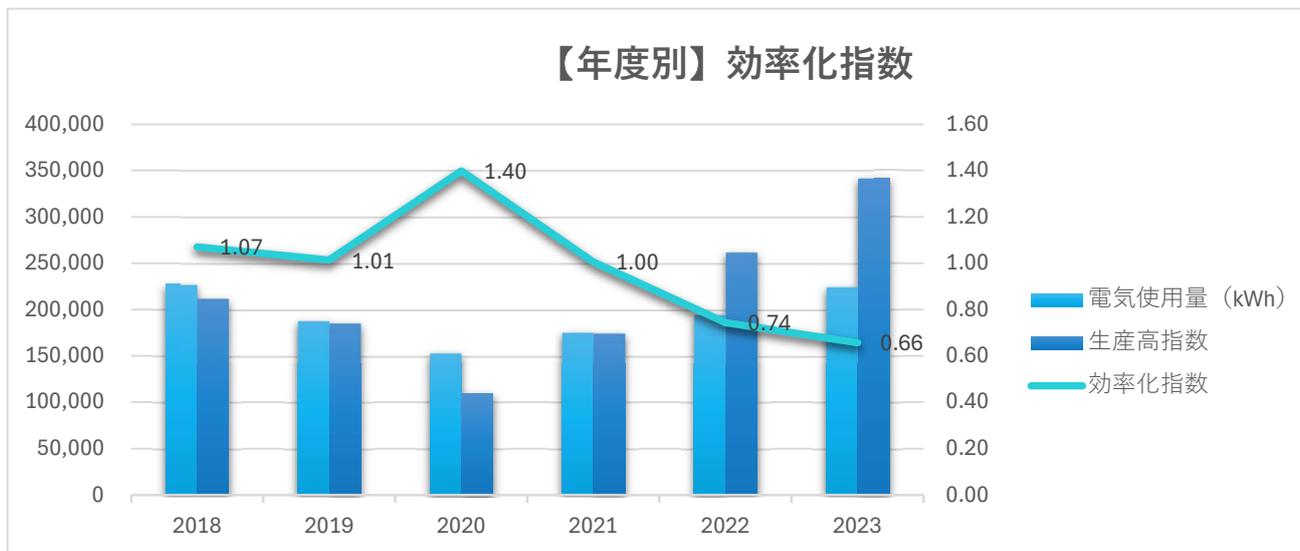
これは、2022 年度に引き続き、2023 年の 11 月にも工場のエアコンの一部を省エネタイプへ変更、また、照明を LED 化したことで電気の使用量が減っていることが考えられる。

今後もエアコンや照明による電気使用量は抑えられ 2024 年度はさらに効率的に生産を行えるようになると思われる。

ガス使用量は昨年度からの現状維持、ガソリン使用量は効率化指数で見ると-30%減、いずれも目標を下回ることができ、二酸化炭素排出量に関してはよい環境経営を行えていると言える。

また、期間中に新たにハイブリット車を導入したことで、ガソリンの使用量が抑えられたと考える。それに伴い今年度以降は効率化指数に準じ、ガソリン使用量の減少は見込めると考える。

以下に年度別の二酸化炭素排出量、ガソリン使用量、ガス使用量の実績値と効率化指数をグラフ化したものを指し示す。



(2)一般廃棄物排出量について

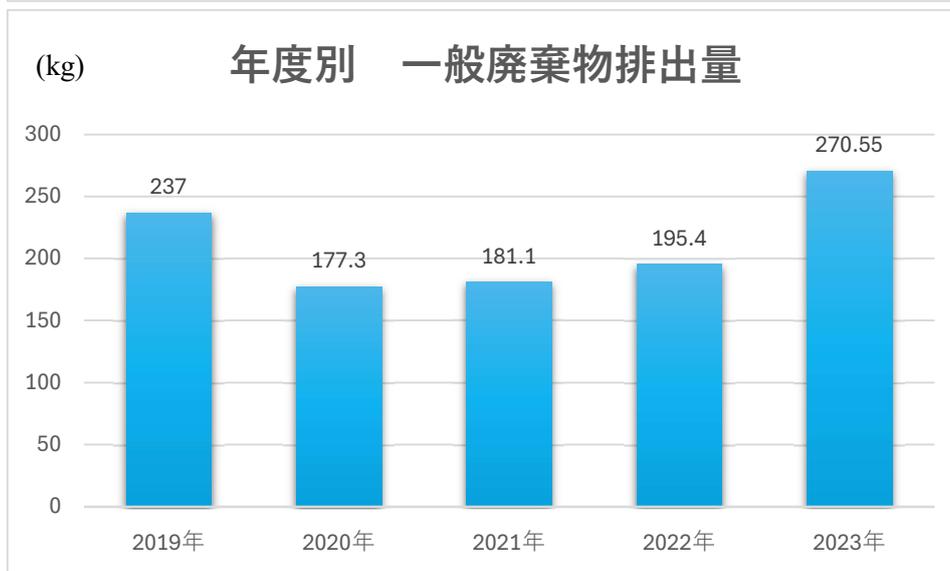
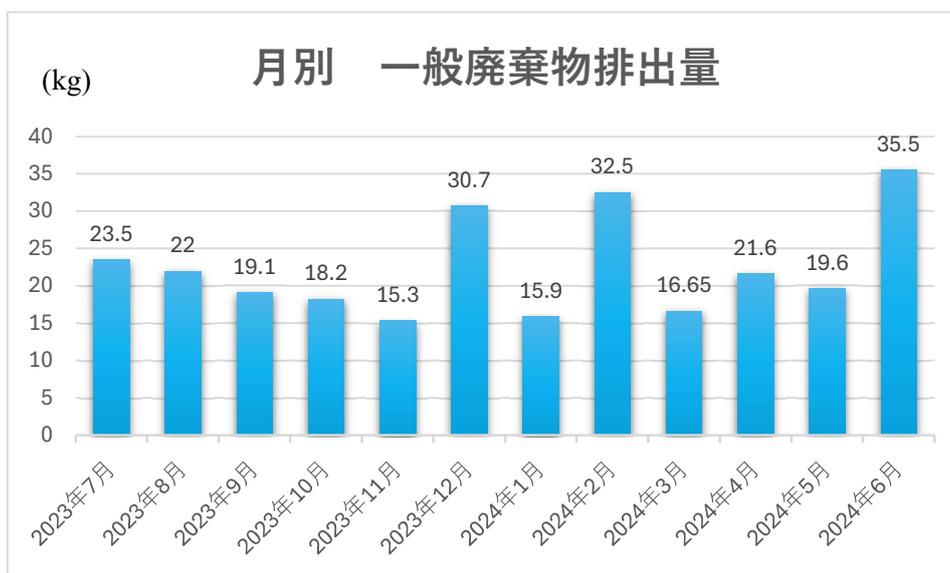
今年度の実績値は 270.55kg となり、目標値の 237kg(2019 年度排出量を目標値と定める)を上回った。

昨年度から比べると数値が多いように見えるがこれは機器の搬入、倉庫の増設がありそれに伴い多くの廃棄物が出た為である。

以下に今年度の月別排出量と年度別の排出量のグラフを指し示す。

従業員の紙のリユース/リサイクルへの意識は定着している。

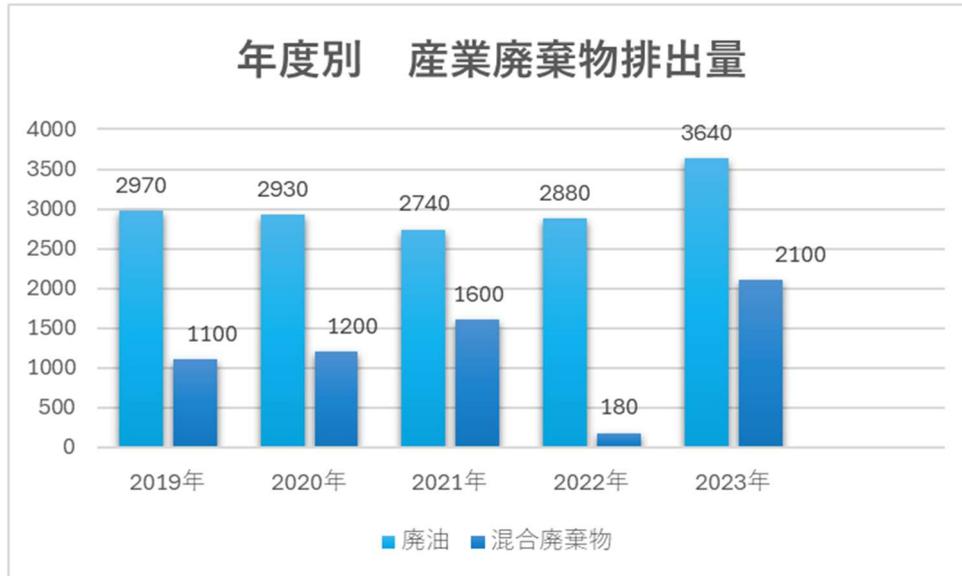
来年度以降、新たな図面管理システムの導入を検討している為DX推進によるペーパーレス化を進め、一般廃棄物の更なる削減を目指していく。



(3) 産業廃棄物排出量について

今年度の実績値は 6,366kg となり、目標値の 4,570kg を上回った。

こちらも例年に比べ多くなっているが、期間中に型彫放電加工機 2 台、NC 旋削盤 1 台、汎用円筒研削盤 1 台、汎用内面研削盤 1 台を新たに導入した。導入に伴い大幅なレイアウト変更を実施したことで混合廃棄物が増え、移動させる工作機械のクーラント液を大量に抜いたために廃油の排出量も増えた。



(4) 水使用量について

今年度の実績値は 195.5m³ となり、目標値の 164m³ を上回った。例年に比べ数値が高くなっているが、期間内に従業員数が 1 人増えたことや、生産高の上昇、工作機械が増えたことにより使用する水の量も増えたと考えられる。また、屋外の大規模な掃除を行ったことも水使用量の増加に関わっていると考えられる。

以下に年度別の水使用量のグラフを指し示す。

ここ近年はほぼ横ばいである。従業員の節水の意識も定着している。



(5) 製品・サービスの環境性能向上について

2020 年度より「顧客より、①加工精度向上、②生産性向上、③寿命延長 等のよい評価が得られた、設計・製造した治具を 1 件/年以上納入実績を得る」ことをテーマに取り組んできたが、今年度は 1 件の納入を果たした。

	顧客	治具名称	納入年月	対象項目
1	■■■■■	ローダー治具の段取り改善	2023 年 8 月	②製品の生産性向上

7. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、および次年度の環境経営計画

	活動内容	評価	コメント	次年度の 取り組み内容
電気使用量低減	空調温度適正設定（夏季 26℃、冬季 20℃）※一部例外あり	○	使用しない工作機械の電源を切らずに外出してしまうことや、昼休憩時、照明の切り忘れがある。引き続き意識の向上をはかる。	継続
	外気活用による空調停止	○		継続
	使用していない設備や機器の電源 OFF	△		継続
	使用していない場所の消灯、外光活用	△		継続
	空調設備・工作機械フィルターの定期的清掃	○		継続
	蛍光灯の LED 化	○		次年度も予定
	空調設備の高効率化更新	○		次年度も予定
燃費向上	「ふんわりアクセル」「早めのアクセルオフ」を心がける	○	意識定着。 ※社用車については別途記載	継続
ガス使用量低減	冬季、温水を流しっぱなしにしない	○	意識定着。	継続
一般廃棄物 排出量低減	コピー用紙の裏紙利用	○	意識定着。できることからペーパーレス化を検討していきたい。	継続
	雑紙リサイクル推進	○		継続
	DX 促進によるペーパーレス化	△		継続
産業廃棄物 排出量低減	梱包資材（段ボール、緩衝材）のリユース推進	○	意識定着。	継続
廃油 排出量低減	専用装置で工作機械のクーラント液の汚れをこまめに除去	○		継続
	汚れた軍手・ウエスを掃除時にリユース	○		継続
混合廃棄物 排出量低減	分別強化し、金属リサイクルに回す	○		継続
水使用量低減	水を流しっぱなしにしない	○	意識定着。	継続
製品・サービスの 環境性能向上	製品・サービスの環境性能向上を推進する	○	次年度以降も 1 件／年以上を目指す。	継続

※社用車について

以下が社用車 4 台の今年度の状況である。

2023年度				2022年度
	総走行距離(km)	給油量(L)	平均燃費(km/L)	平均燃費
社用車①	8991	728.39	12.34	12.32
社用車②	5959	481.06	12.39	11.72
社用車③	1901	287.1	6.62	5.5
社用車④	2477	156.91	15.79	

今年度より新たに、社用車④(ハイブリッド車)を新たに導入したため、2023 年度より社用車を 4 台で管理していくこととする。

また、昨年度に比べ各車平均燃費の向上が見られる。従業員それぞれの燃費向上に対する意識が高まってきていると考える。

8. 環境関連法規などの遵守状況の確認および評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

環境関連法規等の遵守状況を下記表に基づき確認致しました。

産業廃棄物管理票に関し、交付等状況報告書の提出をいたしました。

尚、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟や苦情は過去5年間ない。

法律	要求事項・ 遵守事項	関連施設/該当 事項	実施事項			評 価	評 価 日	評 価 者	
			保管場所	容量	委託業者				
廃棄物 処理法	廃棄物保管 基準の遵守	廃棄物保管場所	廃油	事業所内 北倉庫	200ℓドラム缶 2本	天星製油 (株)	○	2024/ 9/2	■
			ウエス (廃油扱 い)	北倉庫外 (屋外)	200ℓドラム缶	(有)オオタ サービス			
			混合廃棄 物	北倉庫外 (屋外)	200ℓドラム缶	(有)オオタ サービス			
			汚泥	北倉庫外 (屋外)	20ℓペール缶	(有)オオタ サービス			
			がれき類	北倉庫外 (屋外)	0.5㎡コンテナ	(有)オオタ サービス			
			委託先	委託契約書	許可有効期限				
	処理委託先と の契約書締結	産廃処理 委託契約書	天星製油 (株)	あり	令和10年 8月5日	令和10年 7月30日	○	2024/ 9/2	■
			(有)オオ タ サービス	あり	令和8年 7月9日	令和8年 7月9日			
			(株)リ サイクル クリーン	あり	令和11年 10月8日	令和11年 12月1日			
			委託先への 実地確認	(有)オオタ サービス	実地確認済。 ※天星製油(株)と(株)リサイクルクリーンは優良業者につ き実地確認不要。				
	産業廃棄物 管理票の 運用管理	産業廃棄物 管理票	マニフェストの保管管理5年間			○	2024/ 9/2	■	
			交付等状況報告書の提出			○	2024/ 9/2	■	
	浄化槽 法	浄化槽の 設置届	合併浄化槽 21人槽1基 放流先:側溝 最終先:佐鳴湖	汚水処理施設点検報告書ファイルへの保管管理			○	2024/ 7/8	■
				保守点検(1回/3ヶ月)			○	2024/ 7/8	■
				清掃(1回/年)			○	2024/ 5/29	■
法定検査(1回/年)				○	2024/ 6/7	■			

騒音規制法	騒音規制法特定施設の届出	特定施設：空気圧縮機	届出書の提出と変更管理	○	2024/9/2	■
		コンプレッサー 11kW 2台	規制基準の現状確認（浜松市第2種区域）	○	2024/9/2	■
振動規制法	振動規制法特定施設の届出	特定施設：空気圧縮機	届出書の提出と変更管理 →2023年4月低振動型圧縮機へと型式指定され規制対象外に	○	2024/6/10	■
		コンプレッサー 11kW 2台	規制基準の現状確認（浜松市第1種区域の2）	○	2024/6/10	■
フロン排出抑制法	業務用冷凍空調機器	エアコン（室外機）22台 クーラント設備（工作機械用） 14台	簡易自主点検：点検記録表にて管理	△	2024/6/10	■
労働安全衛生法	圧力容器安全規則88条に基づく自主検査とその記録 3年間	コンプレッサー 11kW 2台	毎年、機械本体添付の「機械整備チェック表」にて管理	○	2023/12/22	■
	第57条の3	化学物質	「化学物質管理表」にて、品名、用途を明らかにし、危険有害性を管理	○	2024/9/2	■
化学物質排出把握管理促進法	PRTR制度	対象物質： N、N-ジシクロヘキシルアミン エチルベンゼン キシレン	従業員21人未満であり、かつ、年間使用量は最大でも20ℓにつき、排出量の届け出義務なし	○	2024/9/2	■
	SDS制度		「化学物質管理表」にて、品名、用途を明らかにし、SDSを管理	○	2024/9/2	■
消防法	（危険物管理）少量危険物管理	工場内保有	「化学物質管理表」にて管理。 管轄消防署の協力と助言を基に適切に管理	○	2024/9/2	■

※フロン排出抑制法の簡易自主点検は実施したが、点検記録を作成していなかったため評価を△とした。

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

活動を推進していることから総合的にカーボンニュートラルを自然と意識できているように見えてきました。

今年度も昨年に引き続き社内のLED化、空調設備の更新をしました。さらにハイブリッドカーの新規導入をしたことで、環境経営目標に対する結果として全体的に数値の向上が見られました。現在の社屋へ移転して17年が経過していることもあり、社内設備の更新は数年に渡って続くと思われます。それに伴う数値の上昇も期待されます。

売上の増加に伴い生産高が増えて、電気をはじめ諸項目で使用量や消費量の数値は増加しています。一方で効率化指数をみた結果から、日々、効率的に業務に取り掛かることができていることが分かります。社内でこの結果を周知し、今後も意識が途絶えぬよう積極的に活動していきます。

受注するカテゴリの割合の変動や設備投資など、会社内外の環境が日々変化していくなかで、最適な目指す姿を表して、新しい目標や活動内容を模索していきます。

	項目	変更の必要性	コメント
1	環境経営方針	なし	
2	環境経営目標	なし	
3	環境経営計画	なし	
4	実施体制	なし	

2024年9月9日
代表取締役 内田成俊